ISSN 1882-0514

総合資料館だより

2012.1.1　No.170

第四回内国勧業博覧会

第四回内国京都府勧業博覧会図

明治28(1895)年、平安遷都千百年紀念祭にあわせて、第四回内国勧業博覧会が京都で開催されました。会場の岡崎には工業館、農林館、器械館や各府県の売店、飲食店などが建てられ、出品点数16万9000点、入場者は４か月の会期中、113万人をこえる盛況でした。

また、開催にあわせて京都電気鉄道会社が開業し、日本最初の市街電車が走りました。同年２月１日には七条停車場(京都駅)と伏見油掛間が、４月１日には七条停車場から博覧会場を経て、疏水ほとりの南禅寺船溜りを結ぶ区間が開業し、博覧会場への足となりました。

画像の「第四回内国京都府勧業博覧会図」は、画像データ閲覧システム「京の記憶ライブラリ」で閲覧できます。文献資料・古文書・写真資料・行政文書等、約１万点の画像を掲載しています。当館所蔵資料により、古えの京都をお楽しみください。

（アドレス　http://kyoto-shiryokan.jp/kyoto-memory/index.php）

目次

第四回内国勧業博覧会…… 1
知事年頭あいさつ…… 2
文献課の窓から「読書で巡る戦前の近畿―失われた情景を求めて―」…… 3
歴史資料課の窓から
「大型資料デジタル化と明治初期の社寺政策―神社一覧・寺院本末一覧のデジタル化―」…… 5
最近の収集資料から(平成23年９月～11月)…… 7
東寺百合文書第９巻を刊行…… 10
平成23年度歴史資料カレッジ（後期）のご案内…… 11
日誌、友の会事務局から　利用案内…… 12

「こころ」をひとつに　京都から日本を元気に

京都府知事　山　田　啓　二

府民の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年は、東日本大震災という未曾有の災害が発生しました。また、急激な円高水準による経済・雇用情勢のさらなる悪化の懸念やＴＰＰ交渉参加問題など混迷の時代を迎え、現在、そして将来に対しての不安が私たちに覆い被さる、まさに試練の年でありました。

この大変な年に、私たちは「こころを整える～文化発心（ほっしん）」をテーマに、「第２６回国民文化祭・京都２０１１」を開催しました。大震災の犠牲者に対する鎮魂の祈りを捧げた開会式とともに、オープニングパレードでは被災地から参加いただいた若い世代の方々の元気な演技に、私たちが逆に励まされ、勇気づけられる思いがいたしました。

「日本のこころ」の素晴らしさを改めて問い直し、地域の「絆」を強める中で次の世代に引き継ぎたいとの願いを込めて開催したこの大会で、若い世代が生き生きと力を発揮し、大きな活躍をする姿に、京都の次代の担い手が育つ確かな手ごたえを感じました。これが、まさに今大会の大きな成果であると思っております。多くの府民の皆様にご参加いただきましたことに改めてお礼申し上げますとともに、開催に当たり多大なご尽力、ご支援をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。

今年は、国民文化祭で培った「絆」をしっかりとつなぎ、今こそ互いが思いやりの「こころ」を寄せ合い、支え合う社会を築く年にしたいと心から思います。

府民の皆様と「こころ」をひとつにし、京都から日本再生の灯りをともしていくためにも、「だれもがしあわせを実感できる希望の京都」を実現するため全力を挙げて取り組みます。東日本大震災を教訓に、防災対策など皆様の生命と暮らしをしっかりと守るための課題に速やかに対応するとともに、沓掛・大山崎間の開通を控える京都縦貫自動車道や鉄道、港湾など府域の内外を結ぶ交流基盤の整備、また、京都舞鶴港を核に海外を含めた広域観光ルートの整備など、地域発展の基盤づくりを背景に、京都の活力の源である中小企業支援や農林水産業の競争力強化を図りたいと思います。さらに、ＮＰＯや地域団体の皆様の力を融合して、地域おこし、環境・貧困問題といった社会的課題に立ち向かう総合的施策を推進するなど、京都ならではのオール京都体制で、明日に挑戦する府民の皆様の生活を全力で支えていきたいと思います。

困難に直面している今こそ、子どもたちの未来のために、京都から日本再生への歩みを進め、日本全体を明るく元気に、辰年を立つ年に、飛龍のごとく、飛躍の年にしてまいりましょう。

この一年の、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

文献課の窓から

読書で巡る戦前の近畿
―失われた情景を求めて―

戦前の近畿へ

旅に出る時、あてもなく彷徨の旅に出られる方もおられますが、ガイドブック片手に、旅のプランを練り、更に旅の楽しみを膨らませる方も多いと思います。ところで、旅先の情報は、日々刻々と変化し、出版から歳月を経たガイドブックは、やがて役に立たたなくなり、その役目を終えます。しかし、更に歳月が経つと、その本は、違った旅の情報の楽しみ方を提供してくれます。

今回紹介する本は戦前の近畿の旅を題材にした、今で言うガイドブックです。市町村史や統計資料では過去の記録を調べることはできますが、当時の人々に記憶された印象やその時の息吹までを知るには難しいものがあります。例えば、谷崎潤一郎の『細雪』は戦前の近畿を舞台にした小説として有名ですが、そこに描かれた近畿各地の風景を連想する時、『細雪』の時代を経験した方と経験していない方では、想いをはせる世界の広がりや雰囲気は違っているかもしれません。しかし、その時代を経験していない方でも、当時のガイドブック的な本を読むことで、その時代の情景を実感し、文学作品や当時の文化への親近感も増してくるのではないでしょうか。

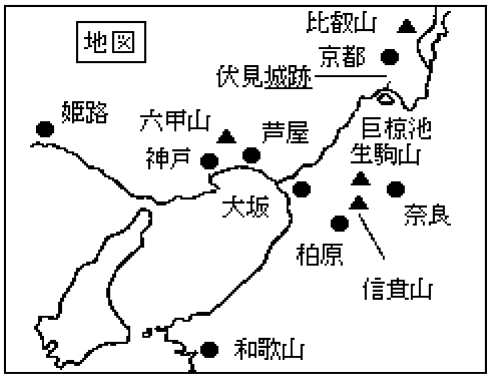
それでは、当館で所蔵する本から一部ですが、当時の人々の息吹や体験を通じて戦前の近畿各地の様子に触れてみることにしましょう。

巨椋池

現代の私たちが、どうしても経験できない旅、それは、失われた名勝や旧跡を巡ることです。昭和初期まで、現在の伏見区と宇治市、久御山町にまたがって巨椋池という湖沼が存在していました。蓮の名所としても有名でしたが、干拓により大規模な農地に姿を変えました。さて、『近畿景観』（北尾鐐之助著）によれば、「**本當に池をみようとするのなら、伏見桃山から奈良電車が、この湖の東邊をつき切つて、巨椋神社を祀る小倉村まで延びてゐる。そこから船を雇つて、湖を縦斷し、東口の相島に上陸して、更に宇治川を渡つて淀町に入るがよいであらう。**」と池の遊覧手引きや、「**十月十五日からの獵期は、京阪神のあらゆる遊獵家を、ここの鴨撃ちによんで、十五日の朝ともなれば、まだ夜も曉け切らないうちから、百人近い遊獵家は小倉の村に集つて來た。巡査がこれ等の人々を統率して、船を揃へて天明を待つた。**」と臨場感のある狩猟の様子が書かれ、高速道路が通じた今日では体験できない情景が読みとれます。

伏見城址

巨椋池を見下ろす丘陵にある伏見城址に、明治天皇伏見桃山陵が造られました。今回、紹介する本にも、伏見桃山陵の記述が多くありますが、『畿内行脚』（金尾文淵堂刊）には、「**二の丸の跡と云えるの茶店に腰打ちかけ眺めやりたるに巨掠(ママ)池を前に近畿の山河一望の中にあり…〈中略〉…天主臺の跡、本丸の跡など杉の木立しげく、ところどころ大なる石のころがりあり。**」と、陵墓になる前の記述があります。二の丸跡は、現在の拝所の西側と推定されますが、陵墓地のため立ち入ることは出来ません。



河内のぶどう

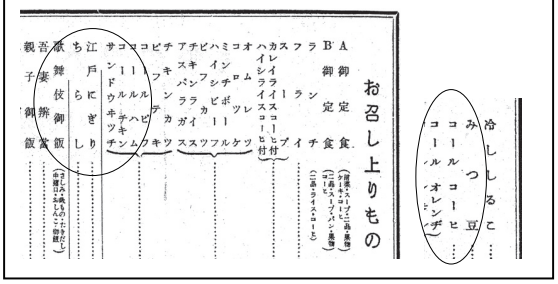
伏見桃山のような眺めではなく、丘陵で栽培されていた果樹についての記述もあります。目を引いたのが、信貴生駒山系に連なる現在の大阪府柏原市付近の記述です。『近畿・山陰の風物』（大阪鉄道局編）によれば、「**葡萄は年生産額八十餘萬圓で、我國の首位を占め、大阪府の南河内、中河内二郡に産する。自然の緩斜面を利用して作られた葡萄畑は、果樹の栽培景観として美しく、南河内郡の長野、中河内郡の柏原附近は、葡萄狩の興趣もあつて、収穫時には視察散策の好適地である。**」とあり、『史蹟と地理伝説を尋ねて新近畿行脚　下』（大阪市教育部共同研究会編）によれば、「**堅下葡萄の名、從來の甲州を凌がんとしてゐる。**」と、昭和初期の『農

林省統計表』（※1）が示すとおり全国一の収穫高を誇ったぶどうの産地であった様子が伺えます。また、平成23年３月～６月にかけて、柏原市立歴史資料館で企画展「柏原ぶどう物語」が開催され、当館でも企画展の図録『柏原ぶどう物語』（柏原市立歴史資料館編）を所蔵していますので、あわせて参考にしてください。

道頓堀の芝居小屋

ぶどうだけでなく、戦前の大阪を代表するものは数多くありますが、芝居小屋が立ち並ぶ道頓堀の風景も大阪を象徴するものであったようです。「**大阪の特色を見るに最好いのは芝居である。大阪の風俗を見るに最好いのも芝居の桟敷である。大阪の女性は東京よりも、京都よりも、芝居を第一の晴の場所とする。**」『畿内行脚』（金尾文淵堂編）や「**五座…〈中略〉…の櫓がづらりと軒を並べ俳優の名を染め抜いた旗や幟や茶屋の暖簾が飜つて…〈中略〉…典雅な情調が漂うてゐる。**」『史蹟と地理伝説を尋ねて新近畿行脚上』（大阪市教育部共同研究会編）などで、現在とは異なる道頓堀の賑わいの様子が伺えます。また、昭和7年11月の『中座筋書』の冊子にある館内食堂の広告メニューには、「**江戸にぎり**」という表記があり、江戸と断っているあたりは、当時の大阪では、まだまだ、にぎり寿司は関東の食文化という評価だったのでしょうか。この他、「**コールコーヒ**」という表記もあり、当時を知る方には懐かしい響きかと思います。

中座食堂のメニュー



阪神間

道頓堀の北にある船場には江戸時代からの商家が数多く軒を連ねていましたが、その商家の主たちが、明治以降、新たに居を求めたのが阪神間です。「**芦屋川のつき出した三角洲は、東をみても、西をみても、ゆるやかな海岸線を遠く望むことが出來る。**」『近畿景観』（北尾鐐之助著）、「**中國街道の松並木が煤煙に咽びながら辛うじて餘命をつなでゐる風景がみられる。…〈中略〉…武庫川を越すと、左窓に甲子園球場、右窓に近く阪急の西宮球場の大鐵傘をみて、**」『近畿・山陰の風物』（大阪鉄道局編）と自然が残りつつも開発が進む阪神間の情景が伺えます。

他にもたくさん

この他にも、近畿各地の数多くの失われた風景や、今では珍しくなった川魚や琵琶湖の魚料理、或いはサンショウウオ料理の記述、また、時代の変化により、現在はひっそりとたたずんでいる名所旧跡の賑やかだった頃の様子などを戦前の本を通じて知ることができます。

本の中での過去への旅、或いは現在はひっそりとしている名所旧跡を訪れる際の参考資料として、以下に紹介する当館の本を活用していただければ幸いです。

（文献課　若林　正博）

※1 大阪府のぶどう収穫高は、昭和２年から４年連続全国１位であった。戦前はこれらの年以外にも全国１位となった年がある。

〈参考資料〉

- 『畿内行脚』　金尾文淵堂 1919
- 『畿内見物 大阪之巻』　金尾文淵堂 1912
- 『畿内見物 京都之巻』　金尾文淵堂 1911
- 『畿内見物 大和の巻』　金尾文淵堂 1911
- 『近畿・山陰の風物』　大阪鉄道局 柳原書店 1940
- 『史蹟と地理伝説を尋ねて新近畿行脚』　増補訂正第19版　上、下 大阪市教育部共同研究会 創元社 1935
- 『近畿趣味史観』 篠崎昌吉 湯川弘文社 1943
- 『近畿名蹟全書』 1～11 辰馬六郎 金剛社 宝盛館書店（発売） 1934～1942
- 『近畿景観』　北尾鐐之助 創元社 1929
- 『近畿景観』 6,7 北尾鐐之助 創元社 1936～1939
- 『柏原ぶどう物語』柏原市立歴史資料館 2011.3
- 『［中座筋書］』　昭和４－７年上演分の筋書を合綴 中座編刊 1929～1932
- 『農林省統計表』 第４次（昭和２年）～第７次（昭和５年）　農林大臣官房統計課編刊 1928～1931
- 『丹波琉璃渓』　北尾鐐之助 奥村 覺 2006

歴史資料課の窓から

大型資料デジタル化と明治初期の社寺政策－神社一覧・寺院本末一覧のデジタル化－

はじめに

近年、歴史資料のデジタル化事業が各地で取り組まれています。当館においても、京の文化振興プラン（平成15～17年度）をはじめ、大学との連携や住民生活に光をそそぐ交付金（平成22年度）を活用し、平成23年７月から「京の記憶ライブラリ」として資料画像を公開しています。

今回は、このデジタル化を行った資料のうち、特に大型の資料である「神社一覧」と「寺院本末一覧」について紹介するとともに、歴史資料デジタル化の課題について述べたいと思います。

１．デジタル化した資料から見えるもの

現在、当館で所蔵する11点の「神社一覧」は、府内の社寺地をすべて所管するようになった京都府が、それらの把握をするために作成した一覧表です。当時の府内にあるすべての神社をまとめた「神社一覧　全」や大社のみをまとめた「大社之部」のほか、当時の郡単位で作成されたものがあり、各資料には、明治４（1871）年正月と作成時が記されています。

また、10点残されている「寺院本末一覧」は、同じ趣旨によって明治３年の後半に作成された資料で、こちらは各宗派ごとにまとめられ、子院・塔頭・末寺などの系統図となっています。

今回は、これまで写真撮影を行っていなかった「神社一覧」４点、「寺院本末一覧」８点のデジタル化作業を行いました。

このなかで、特に注目されるのは、「神社一覧全」（神社一覧01）という資料です。この資料は、縦が268㎝、横幅が2496㎝もある超大型資料です。25ｍプールの１レーンよりも大きな資料、ということになります。この資料には、当時の京都府内にあり、府が「神社」として把握したすべての施設ごとに「所在地」「祭神」「末社」「神主」「宮守」などが記載されています。

しかし、資料の作成の状況や、どのように使用されたかなどは不明です。ただ、非常に大きく、

当館所蔵「神社一覧」「寺院本末一覧」一覧表
（備考欄「今回撮影」の資料は web でご覧いただけます）

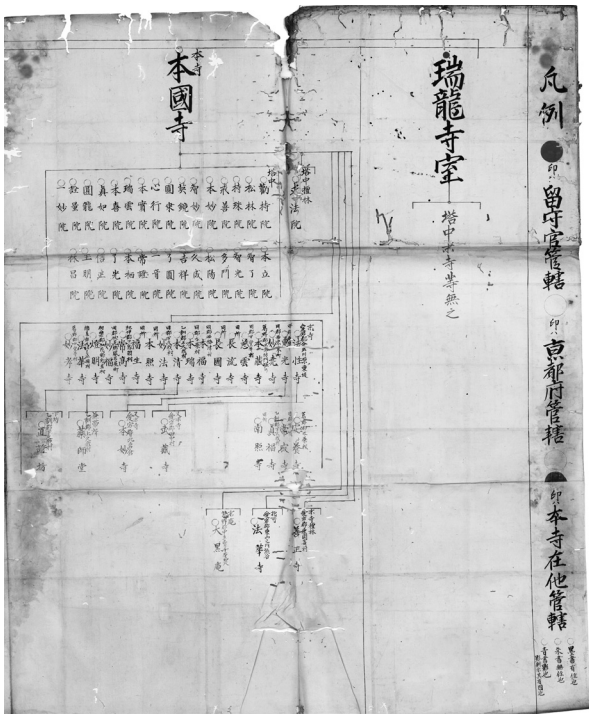
ID	資料番号	資料名	サイズなど（縦×横、単位 cm）	備考
1	神社一覧01	神社一覧　全部	268×2496、上部に附箋　64×24	今回撮影
2	神社一覧02	神社一覧　大社之部	110×101、上部に附箋　63×18	既撮影
3	神社一覧03	神社一覧　洛中之部	192×301、上部に附箋　62×23	既撮影
4	神社一覧04	神社一覧　愛宕郡之部	156×538、上部に附箋　63×23	既撮影
5	神社一覧05	神社一覧　葛野郡之部	155×490、上部に附箋　63×24	既撮影
6	神社一覧06	神社一覧　紀伊郡之部	160×150、上部に附箋　56×23	既撮影
7	神社一覧07	神社一覧　乙訓郡之部	151×367	今回撮影
8	神社一覧08	神社一覧　宇治郡之部	156×271、上部に附箋　64×24	今回撮影
9	神社一覧09	神社一覧　久世郡之部	148×151、上部に附箋　64×23	既撮影
10	神社一覧10	神社一覧　綴喜郡之部	154×270、上部に附箋　65×24	今回撮影
11	神社一覧11	神社一覧　相楽郡之部	149×487、上部に附箋　61×23	既撮影
12	寺院本末一覧01	天台宗本末一覧	134×477、上部に附箋　111×28	今回撮影
13	寺院本末一覧02	真言宗古義派本末一覧	134×550、上部に附箋　96×27、下部に附箋　63×52、下部に附箋　13×6	今回撮影
14	寺院本末一覧03	真言宗新義派本末組合一覧	117×187、上部に附箋　78×25	今回撮影
15	寺院本末一覧04	禅宗臨済派本末一覧	132×835、上部に附箋　107×27、ほかにも附箋複数あり	今回撮影
16	寺院本末一覧05	禅宗曹洞黄檗両派本末一覧	132×358、上部に附箋　110×26	既撮影
17	寺院本末一覧06	一向門徒本末組合一覧	185×374	既撮影
18	寺院本末一覧07	浄土宗鎮西派本末一覧	154×1114、上部に附箋　109×27、ほかにも附箋複数あり	今回撮影
19	寺院本末一覧08	西山派浄土宗本末一覧	133×432、上部に附箋　114×26	今回撮影
20	寺院本末一覧09	日蓮宗本末一覧	134×660、上部に附箋　114×25	今回撮影
21	寺院本末一覧10	兼学宗本末一覧	138×480、上部に附箋　27×109	今回撮影

およそ実用的と思えないこの資料を、多くの労力を費やして作成したという事実自体から、すべての情報を記載しながら全容を示したいという一覧性への欲望を強く感じます。

また、この巨大な資料の上辺部には64×24cmの附箋があり「京都府」と記載されています。そして、この附箋にむかって各神社から朱線が伸びており、京都府が各神社を統括することを示しています。これはほかの「神社一覧」や「寺院本末一覧」でも同様で、京都府が各神社・寺院を統括するという意思を視覚化したものと言えます。

また、「寺院本末一覧」では、東京に移った政府のかわりに京都に置かれた留守官管轄や京都府管轄などの区別が記号によって表されています。さらに、近世に形成された本寺・末寺の関係が明確に記されています。

これらの資料は、神仏分離令と社寺上地令の間の時期に作成されました。当館所蔵の「社地画図」「寺地画図」とともに、明治初年の神社や寺院の構成が大きく変化する時期を分析するための重要な資料と言えます。



▲寺院本末一覧　の一部

2．大型資料デジタル化の課題

住民生活に光をそそぐ交付金を活用した事業では、大型スキャナを使用し、高精細画像を作成しました。スキャンの対象は「神社一覧」や「寺院本末一覧」を含めて約150点、作成ファイル数は6,889にのぼりました。これらのファイルは保存や活用を考え、1画像につき複数を作成しました。これらのうち一部はwebでの閲覧に提供していますが、資料自体が大きく、また専用の画像閲覧ソフトを使用してないため、たとえば「神社一覧全」（神社一覧01）が73枚の画像に分割されているような形になっています。今後も、より捜しやすく、利用しやすくするための検討が必要になります。

また、これらの資料は、多数の紙をノリで貼り合わせて作成されているため、虫喰いがひどい状態でした。重要文化財であるため、文化庁などと協議しつつ、破損箇所を修理しながら撮影を行うことも選択肢としてありましたが、今回は資料自体の修理は行いませんでした。今後は、撮影候補の選定や他機関との連携などについて、資料の特殊性を念頭におきつつ、デジタル化の戦略をしっかり持って進めて行く必要があります。

おわりに

当館のデジタル化事業推進にあたっては、立命館大学文学研究科矢野桂司教授や京都大学工学研究科井手亜里教授の研究室の協力を得ました。今後、資料のデジタル化への要望はますます高まってきます。このデジタル化事業を効果的に展開するためには、大学や企業との連携が一層重要になると考えられます。

当館資料をあらためて「公共財」と位置付け、大学とは研究素材の提供と成果の共有化のために、企業とは商品化などのコンテンツ展開も視野に入れ、権利処理について充分な検討を行いながら、よりひろく、自由に使っていただけるように取り組んでいきたいと考えています。

※本稿の一部は、2011年11月15日に京都大学時計台国際交流ホールで開催された「International Workshop on Digitization of Cultural Heritage ～ Science and Technology for Art ～」での報告をもとにしている。

※「京の記憶ライブラリ」
http://kyoto-shiryokan.jp/kyoto-memory/

※京都府立総合資料館歴史資料課編1993
『改訂増補　文書解題』（京都府立総合資料館）

（歴史資料課・行政文書担当　福島幸宏）